

(様式第4号)

上田市図書館協議会 会議概要

1 審議会名	上田市図書館協議会
2 日 時	令和6年3月13日(水) 午後6時30分から午後8時7分まで
3 会 場	上田情報ライブラリー セミナールーム
4 出席者	中村会長、大井副会長、荒木委員、小林委員、小林委員、松永委員、内山委員
5 市側出席者	佐藤上田図書館長、金田上田情報ライブラリー館長、高橋上田図書館係長、赤地上田図書館係長、和田上田情報ライブラリー次長、藤森丸子図書館次長、菊地真田図書館次長
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和6年3月17日

協 議 事 項 等

1 開 会 (上田図書館長)
2 あいさつ (中村会長)
3 協議事項
(1) 令和5年重点目標の取組状況について
・ 令和5年度重点目標の取組状況について、資料に沿って説明
① 電子図書館(デジとしょ信州)の利用促進
② 図書館利用が減少する中学生・高校生を対象としたサービスの充実
③ 職員の資質向上
・ 以降、協議
(委 員) デジとしょ信州の実績表の登録数は、その月の新規登録者数か、それとも毎月登録しないといけないのか。
(事務局) その月の新規登録者数である。一度登録するとずっと使える。
(委 員) 貸出件数が、サービス開始月は多いが、段々減っている。事業の必要性が、低調な推移となっていると書いてあるが、更なる周知が必要なのかあるいは事業に魅力がないので使う人が増えないのか、その辺の分析はどう考えるか。
(事務局) 更に周知を図る必要があると思っている。長野県では令和4年度と5年度の2年間は試行期間と位置付けており、令和8年度までの5年間運用して、実績を見ながらその先をどうするか協議する予定となっている。来年度以降、更なる周知をしても挽回できる要素が少ないが、今後やってみないと分からないので更なる周知をしていきたい。
(委 員) 当初の想定では、もっと利用があると見込んでいたのか。
(事務局) 当初は特に目標を立てておらず、これからも目標を立てるかどうかというところで議論が止まっている。利用者の年代が多いのは、30代~50代で全体の60%を占めている。若い世代が使い始めることが、利用が増えるポイントと考えている。
(委 員) もう少しこうなればいいのかという意見はあるのか。
(事務局) このサービスが出来て良かったという意見は捉えているが、こういうところを便利にすればいいというような意見は上がってきていない。そういう意見を収集するところが弱いかもしれない。意見を聞く手法を考えた方がよいので県の会議で話していきたい。
(委 員) デジとしょ信州の体験コーナーはどのくらいの利用があったか。
(事務局) カウントはしていないので利用数は不明である。
(委 員) せっかく体験コーナーを作ってもあまり利用がないもったいない。使われないということは、興味を持たせるような何かが足りなかったのではないか。これによって利用が上がったということは余りないように思える。読みたい本がない。今は何冊くらいあるのか。
(事務局) 令和5年度は予算2,600万円で約7,000冊購入した。学校で皆で読める読み放題の本は

約 180 冊購入した。令和 4 年度は約 10,000 冊購入し、青空文庫が 10,000 冊強で、合計で約 27,000 冊という状況である。

- (委員) どんな本を購入したのかわからない。また雑誌も読みたい。新刊コーナーがないし、もっと紹介した方がよい。図書館としてデジとしょ信州にどのくらい力をいれているのかよく見えてこない。
- (事務局) どういう本があるのかが一番のところだと思う。新刊の検索は、詳細検索をすると出てくる。
- (委員) いつも使っていれば分かると思うが、入口にこんなのあるとか誘導するようなものがあるといい。
- (事務局) 要望を収集することを今までしていなかったなので、県の全体会議で伝えていきたい。
- (委員) 利用者は 30 代～50 代が多いということだが、60 代以降の人でも使える人が多い。高齢の方にも使い方を周知していけばもっと広がると思う。
- (事務局) 70 代、80 代の方にも使っていただいているので、更に使い方を理解できるように周知を考えたい。
- (委員) リアルな図書館ではないので覗いてみるのが一番。そのために体験コーナーを設置したので、人がたくさんいるような時に職員が声をかけて集めて使ってもらおうということをするればいいと思う。
- (委員) 電子図書館は、他の地域や他県での実態は分かるか。
- (事務局) 県内の市町村については情報が入ってきていない。全国で県と県内の市町村全体で連携しているのは長野県だけなので比較ができない。
- (委員) 学校図書館へのアンケートの中で、デジとしょ信州が有効だと思えないという回答が多いが、これは使ってみただけで有効だと思えないという回答なのか。
- (事務局) 必ず使ってから回答するように伝えた。ただ、直接話をしていないので、直接説明すればもっと有効性を知ってもらえるのではないかと考える。学校司書だけでなく、学校の図書担当の教諭にも説明することが必要だと考える。
- (委員) 中学生・高校生を対象としたサービスの充実で、アンケートで学校司書がどういうことを認識しているのか捉えるのは重要なので引き続きやって欲しい。質問の 3 で、「予約資料で多い分野」の回答で文学が一番多いのは国語の授業で使っているからだと思うが、学校司書が教員からこういう学習をしたいが良い資料がないと言われて探すことになるが、授業で使うのであればどんな授業で使うのかを聞くと、どういうシチュエーションで使うのか見えやすくなるので、利用促進という意味では特にこういう場面で働きかければよいというのが見えてくると思った。
- (委員) 高校との連携で、検討したと書いてあるが検討の中身とどのような議論がされたか教えてもらいたい。
- (事務局) 高校の司書部会から 3 つの要望があり、それをエコールとして応えられるかをエコールの実務担当者会議で検討した。エコール全体で同じ方針、方向で高校と連携するのはいくつかの課題があり時期尚早ということになった。しかし、公共図書館側も何かしら高校と連携していきたいという思いがあり、まずは試行として上田市内の高校と、上田市内の図書館で要望に応えられないか検討しているところである。各市町村で高校の数や図書館の規模に差があるので、エコール全体というのは課題が多すぎる状況であるため、まずは上田市だけで具体的に連携できないかを検討している。
- (委員) 職員の資質向上で、「これからの公共図書館研究会」と「アクセシブルライブラリー研修会」はどのような内容のものか。
- (事務局) これからの公共図書館研究会は、今年度はレファレンス研修会をオンラインで行い、クイックレファレンスでどのように最適解を見つけるかの研修をした。図書館職員の専門性を高める研修で、図書館サービス計画、デジタル活用、学びのプログラム学校連携、資料活用レファレンスの 4 つの部門があり関心のある部門に参加できる。アクセシブルライブラリー研修は、デジとしょ信州で活字での読書が難しい方に向けて音声で読み上げる機能

があり、その操作研修をした。いずれも県立長野図書館が主催である。

(委員) 文献資料保存活用研修会の開催地と主催者はだれか。

(事務局) 主催は長野県立歴史館にある長野県史料保存活用連絡協議会で場所は県立歴史館で行われた。また、施設見学があり、上田市材木町の清蘭堂工房で行われた。

(委員) 今年度の長野県図書館大会の会場はどこか。

(事務局) 松本市で行われた。

(2) 令和6年度重点目標について

・令和6年度重点目標について、資料に沿った説明

① 古文書や郷土資料等貴重資料のデジタルアーカイブ化と利活用の推進

② 学校連携による子ども読書活動の推進

③ 上田図書館改築における整備計画策定準備

・以降、協議

(委員) デジタルアーカイブ化は具体的には、スキャンしてデジタルデータをどこかのサーバーに入れておくというイメージか。

(事務局) 貴重資料の花月文庫については、山なみという利用者団体が上田図書館にあり、古文書学習会で何十年も読み解いている。その結果を地域に還元するため2年に1度、貴重資料紹介展を実施している。その際に図録を作成しているが、原文の古文書とともにその解説を一体化してデータ化をしていくものである。市のDX推進課の中のマルチメディア情報センターの職員と協力してデジタル化していく。

(委員) データベースなので検索がうまくできるかとか、どこに入っているか分からないというようなことにならないように、専門の方と進めてもらいたい。

(委員) 予算は、来年度で付けるのか。

(事務局) 図書館の予算ではなく、DX推進課の予算を使うことになる。

(委員) 図書館として新たに予算を付けるということではないのなら、図書館の資料をデジタル化するが、図書館の事業ではないということか。

(事務局) 図書館の事業になるが、費用は他の部署で出していただく。時代の流れとしてDX推進課で市の全体の貴重資料をデジタル化していくという流れの中での事業になる。

(委員) デジタルアーカイブ化は、一般市民からの要望はあったのか。

(事務局) 図書館利用者は貴重資料の存在を知っており、今の時代、紙だけではなくデジタル化して公開し、皆が簡単に閲覧できる方法を考えてほしいという意見をいただいた経過がある。

(委員) 山なみの会で貴重資料展を実施したり図録を作成したりしているが、それだけでは足りないということか。デジタル化もいいが、図書館側で貴重資料展や図録をもう少し宣伝してもらいたい。講演会ももう少し宣伝してほしい。

(事務局) 再来年度に貴重資料展があるので、広報の仕方や皆さんがたくさん来て頂けるように検討していきたい。

(委員) 高校との連携で上田市内だけでやるなら、小中学校でやっている本を運ぶという物流が必要になるのか。

(事務局) 現在のシステムの範囲内で行うことが条件となる。高校の司書も物流まで求めてはいない。高校の司書が近くの図書館に本を取りにくるが、今までは登録した図書館のみでしか受け取りができないなど限定的であったが、その枠を緩くするようなことをしたいと思っている。高校にはエコールの端末が入らないので、小中学校と同じ連携は出来ない。団体貸出しの中で行うが、もう少し改善できるように検討したい。

(委員) 上田図書館改築の関係で、市民からの意見収集とあるが具体的にはどのように行うのか。

(事務局) 具体的に固まってはいるが、図書館利用者団体の方や図書館協議会委員、社会教育委員など図書館に関わっている方からの意見を収集していくところから始めると考えている。まずは、図書館に近い方から始めて、段々と図書館を利用していない方にも広げて意見収集していきたい。

(委員) 図書館が新しくなって魅力的になれば、今まで来なかった人も利用するようになると思う。今は利用していない人の意見も大いに聞いてほしい。

(事務局) 今年度いくつかの図書館を視察したが、利用していない方にも意見を伺いたいという話を司書から聞いて、確かに図書館が新しくなれば利用するという場合が大いにあるので、利用していない人にも意見を聞いていきたいと考えている。

(事務局) まちづくりとしての図書館の役割について、一人ずつ意見をお話しいただきたい。

(委員) 真田図書館は、良い場所に立派な施設があるのに余り使われていないのもったいないと思う。以前に横須賀に住んでいたが、横須賀の図書館は、本は古いがすごく混んでいた。けど真田図書館はいつも空いていて、知り合いの中には私でも利用していいのか、タダで借りられるのかというような認識の人もいる。だから一度図書館に来てもらいご案内すれば利用するようになるかもしれない。まちの中に図書館が組み込まれておらず、図書館の役割が十分に果たされていない。伸び代がたくさんあると思う。まずは図書館に来てもらい、図書館には面白い本がたくさんあることを口コミで広げていきたい。もっと図書館のPRが必要だと思う。

(委員) 場所はどこで、規模はどのくらいで、予算はどのくらい付くのかで全然違ってくる。一番重要なのは、上田市の他の図書館を包括するような中心的な図書館を作ってほしい。それぞれの地域の図書館が独立する部分もあってもいいが、やはり市の図書館をバックアップする県立図書館のような中央図書館を作ってほしい。情報ライブラリーは少し違う役割があるが、それぞれの役割がある図書館を統括する図書館にしてほしい。居心地がいいとか、広々とした公園がありのんびり外で本を読んだり、お茶を飲んだり食事ができたりと色々な図書館があるが、どこに重点を置くかによる。いろんな人から意見を出してもらい、ものすごく広い空間がほしい人がいれば、本が置いてあるよりのんびりしたい人もいると思う。お金に糸目を付けなければ、相当大きな皆さんの理想の図書館ができると思うが、予算に限りがあるので、上田はどういうような立ち位置で作るか。くつろげるとかお茶を飲めるとかにしてしまうと逆に良いものが出来ないと思う。そこら辺をよく検討してから建ててほしい。上田図書館の特徴は、花月文庫などの貴重な資料があるので貴重資料をどのように扱うか。置き場所を作ってもらえるのかも重要になる。後もう6年しかないのに自分の中で具体的なものが見えないが、統括する中央図書館的な役割をもつ図書館ができればいいとずっと思っている。

(委員) まちづくりとしてのという枕詞でイメージされるものは、例えばそこに新しい図書館が出来たことによって人の流れ・動線が、どういう図書館ができたので結果として変わってくる。それを見越して商店街の活性化のために商店街に作りましょうという市町村もあるし、中央館としての役割を果たす図書館を作ることがメインであれば、まちの中心から少し遠い所でも交通アクセスをしっかりとさせて、そちらに人の流れを作って、書庫のスペースをきちんと確保できることをメインに中央館を作ることも一つの在り方だと思う。最近、駅そのものに図書館を作るとかがあるが、それを選択するのは上田市民の望む形だと思う。いくつかのパターンが出来てくると思うが、行政側がどれを選択するか、市民の要望の中からどれを捨ててどういう形のものにしてくれるのか、市は腹をくくって考えてほしい。郷土資料を収集して保存して、生きた形で皆さんに提供できることを考えたら、それなりの敷地面積が必要になるし、こんなに立派なものを作って贅沢なのではないかという考えは捨ててほしい。まちづくりは賑わいの創出みたいなものがあるが、図書館自体が生涯学習の施設なのでまちづくりは人づくりだと思っていて、図書館の役割、機能の中で建物だけではなくて、専門職を正規職員でどのくらい確保できるかが重要だと思うので総合的に考えていってほしい。重点目標の中で、市民からの意見収集をまずは団体を含めて利用している人達から意見を聞いていくと言っていて、一般市民からは再来年と言っていたが、新しい図書館を作ろうと思ったら6年というのはあつという間だと思う。作業のペースとしてももう少し前倒しで進めていかないと、令和12年に間に合わないと思う。

(委員) 自分は大学の人間なのでその観点から感じることとしては、本というのは高価なものな

ので、それを学生に買わせるのは気が引けるので、図書館にその本があれば気軽に借りて読むことができるし、経済的に恵まれない方とか社会的に排除される傾向のある方、例えば外国人とかセクシャルマイノリティの方とかいろんな方がいる中で、図書館は平等にアクセスできる場所なので、皆さんの意見を伺っていて結構硬派な意見だと思いながら聞いていたが、カフェを作るとかは学生に議論させれば絶対に言うと思う。若者が集まりにくいからカフェを作ればみんな集まるはずだとか。それも結局は市民からどんな意見が集まるかなので、そこを一生懸命にやってほしい。いろんな方から意見を集めて、皆が満足できる、納得できる図書館ができればいいと思う。知の拠点を作るという観点では、中央図書館的な機能を作る方が重要だと思う。貴重資料も大事で、事例の紹介になるが、大学で卒業論文の資料とするために西内時報の調査をして、復刻版を自分達で作った学生がいたが、大学の教員としては貴重資料は学生がアクセスしやすい環境になればありがたく、学生も自分で関心を持って地域に何があるのかを調べるので、アクセスさえできれば学生や教員が研究して、資料はあってもきちんと読み解かれてこなかったものが読み解かれて市民の皆さんもアクセスできるようになり、また新しい知になるとかのサイクルができると思う。貴重資料が今以上にアクセスしやすくなると、大学の人間も連携でき、とりあえずあそこに行ってみなさいとか言いやすくなる。安易にカフェを作るとかいうよりは、そちらの方が知の拠点作りの観点としてのまちづくりを考える時には大事だと思う。

(委員) 上田図書館を改修するのか、建て替えるのかということでも全然違ってくる。

(事務局) 建て替えになる。

(委員) 建て替えになると、土地とか広さとか予算の問題になる。具体的なことを一般の市民は知らないのに希望だけを言ってもらうのも困ると思う。希望だけなら喫茶が欲しいとか、食べる場所が欲しいとか、寝るところがほしいとかたくさん出てくると思う。話し合いをする前に、予算のこととか具体的にお知らせしていただけるのか。

(事務局) 実際に皆さんから意見収集するときにはある程度具体的なものがないとも言えないと思うが、今回はその前段として、まちづくりとしての図書館の役割は何かを捉えたいので、その前段としてお聞きしている。

(委員) 個人的になのか、団体としてなのかで全く違うと思う。先ほど、アクセシブルライブラリーの話も出たが、そういう人達にも開かれた図書館になってほしい。

(委員) 図書館は、知的水準や文化水準を高める場所だと思う。最近は書店が減ってきて、国が後押しをするという記事が載っていたが、本を読むのはやはり大事なことだと思う。今はネットであおられているところがあるが、自分の頭で考えることが大事だと思うし、図書館はその中心になる場所だと思う。それプラス、あそこに行ってみようと思えるような、集える場所もあっていいと思う。そうすれば、若い人も今まで来なかった人も図書館に行ってみようという感じになると思う。あまり、あれもこれもと入れていくと、前に視察に行ったときに立派なものはできたが維持費が大変だという話もあったので、ほどほどにと思った。

(委員) その図書館ならではの貴重資料を前面に出して、特色のあるコミュニティーの場としての図書館になってほしい。各種講座や生涯学習もそうだが、皆が集まって知を得られるコミュニティーの場がほしい。図書館に行ってみようという気にさせるようにコミュニティーの場としての役割を大事にしてほしい。

4 その他
特になし。

5 閉会
異動する職員からあいさつ。